

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0023 福岡市中央区警固
2-1-17 ハイツみかげ803号
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.131

2017年4月5日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 ババと盆地と近代／画・甲斐大策

パキスタンからの送還難民 100 万人	中村 哲
井戸事業の技師として2000年から働き始める	アブドル ラフマン
ダラエヌール診療所で貧しい人々のために働いています	マルーフ
現状と考察のひとつひとつが教科書	東 達也
●カラー特集 「緑の大地計画」の要 マルワリードII	

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

パキスタンからの送還難民百万人

——長期継続の「PMS二〇年体制」に向け、
今こそ最も支援が必要な時

PMS（平和医療団・日本）総院長／ベシャワール会現地代表

中村 哲

みなさん、お元気でしうか。

昨秋からの動きは非常に大きなものでありましたが、何から伝えてよいか戸惑うほどですが、現状を紹介し、今PMSが置かれている緊急事態を、少しでもご理解いただければと存じます。

送還難民の激増と作業地の人口集中

昨年六月から十二月まで、アフガン東部は殆ど雨がなく、干ばつかたの危機が蔓延していました。今年になってから突然の降雨が続く、当面干ばつは和らぎました。

だがジャララバード（ナンガラハル州）は、現在最悪の時を経過しています。日本で大きな報道がないので、伝わってないだけです。内戦だけでなく、犯罪集団の動きが活発となり、市内も統制がきかなくなりつつあります。昨年から一〇〇万人を超える難民がパキスタンから強制送還され、ジ

ャララバードは大混乱に陥りました。冬の到来で送還が中断したものの、今春、間もなく再開されます。この中でPMSは自治会や地方行政と結んで防衛を強化、地域の生存をかけて全力を投入しています。

まさかこれ程だとは思いませんでした。

パキスタンからの送還難民に加え、スピニングガル山麓方面（アチン郡、ロダット郡、エサラク郡）は荒廃して居住環境も治安も悪く、外国から送られる武装組織が蟠踞ばんくわしています。多くの者がジャララバード北部へ逃れ、作業地一帯は、たちまち人口密集地帯となりました。少なくともここには安定した農地があり、食べ物があり、水があり、爆破事件が少なく、贅沢を言わなければ少なからず職にありつけるからです。北部四郡（ダラエヌール、シェイワ、カマ、ベスード）の作業地がなければ、ジャララバードは大混乱で手がつけられない状態に



パキスタンからの帰還難民（2016年12月）

なっただろうと、囁かれています。

私たちの存在が混乱回避の防波堤になっているのは事実で、事業はますます重要性を増していると考えています。至る所で、村落の人口が二倍、三倍と、爆発的に増えています。帰農できない者は市内に繰り出して職を探し、野菜などの露天商、リキシヤの運転手、現場作業員などで生計を立てているようです。このため、国道クナール線は「バザール街道」となって雑踏があちこちに出現、ベシャワールなどから移動してきたリキシヤで道路が埋まっています。ガンベリ沙漠・マルワリード用水路付近にも、三千家族の難民コロニーが生まれ、数を増しています。国連関係によれば、帰還

難民の七〇%がナンガラハル州出身で、アフガン政府は難民を東部にとどめる方針を採っています。

計画は新たな段階に

帰国時、折に触れてこのことを訴えた積りでしたが、率直なところ、当方の説明不足もあって、日本側の現状認識と大きな隔たりがあると感じています。今が最も支援が必要な時だと再度強調します。少しお金や地位がある者は欧米諸国へ逃れることができます。しかし、殆どの地元農民はどこに逃げればなりません。この状態でも生き延びなければなりません。これを見捨てず、多少の労苦を伴っても力を尽くすべきだと



建設中の訓練所(2017年3月)

判断しています。安全や政情への配慮は当然ですが、時には死守すべき人間としての道義と誇りがあります。

計画は新たな段階に入り、「PMS二〇年体制」の確立に向け、現地は必死です。何しろ地域の死活問題なので、事情を理解する国際組織や地方行政も、夫々の立場で、惜しまず協力をしてくれています。植樹を奨励する武装組織さえあります。それほど、誰の目にも過酷な事態だということです。

マルワリードⅡ取水堰、送還難民の受皿

さて、パキスタン国内で起きた爆破事件を受け、二月一七日にトルハム国境が閉鎖され、三週間が過ぎました。ジャララバードは工事資材の流通が滞っていますが、事務所の機転でセメント六千袋を速やかに確保し、今のところ作業全体に大きな影響は出ていません。

この冬の最大の仕事がミラーン堰対岸地帯(マルワリードⅡ)の取水堰建設でした。この事業は、先に紹介したように、これまで活動が及びにくかったクナルル河左岸に展開し、将来の治水と取水堰維持を両岸から可能にするもので、「緑の大地計画」の要衝です。昨年一〇月に着工、一気に取水堰の仮工事を完了、主幹水路1kmを開通、現在、灌漑路の整備と沈砂池の最後の詰め

の工事が行われています。

送還難民が続々と戻ってくる中です。農地回復Ⅱ帰農を早急に促すべく、異例の速さで工事が進められました。このため、極度の疲労で一時は虚脱状態に陥りましたが、現在、態勢を立て直し、春の増水期の前に、護岸工事に力を注いでいます。また、なるべく人海戦術を採用し、雇用機会を増やすよう配慮しています。

今年一月下旬に水門を開放し、送水試験を行いました。これまでにない美しい堰を開き、喜びを共にしました。洪水で多大の耕作地を失った人々が、これで生きられます。九死に一生を得た思いだったと言えます。技術的にも完成度が高くなり、村民とPMSとの絆が更に強まりました。この様子は、また別の機会に報告します。

ガンベリ主幹排水路工事、湿害地を一掃

対岸では、ガンベリ主幹排水路工事が進められています。この工事は「マルワリード排水路事業」の延長です。実際には二〇〇九年に計画が開始され、二〇一四年までに約八〇kmの排水路網を築いた後、主幹排水路再建が必要となりました。その後、各村の利害調整で延期され、昨年三月、やっと流域全体の自治会が衆議一決、着工に至りました。排水路が貫通する各村は、収穫



クナール河の本流。堰、取水門、主幹水路(画面左)が見える(2017年1月)

の犠牲を払って交通路を提供(これは現地で異例の出来事です)、この一年で約一・八km中一・六kmを開通しました。難工事ですが、あと少しです。

ここでも帰還難民が村にあふれ、工事が急がれました。しかし、昨年末までに全ての湿害地を一掃、数百町歩を回復しました。それまでの仕事を併せると、一千町歩に迫る広大なものです。また、この排水路がないとガンベリの新開地の開墾が進められません。主幹排水路の完成を以て、マルワリード用水路二七kmが事実上成ると言えます。

この二つだけでも大工事ですが、今冬は

これに訓練所の建設が加わりました。負担ではありましたが、定期的に始めておくべきものです。これにはFAO(国連食糧農業機構)が協力し、日本側でも教材の作成が進められています。しかし、専門家を増やすのではなく、実戦部隊の養成を主眼にしています。これには学歴や読み書き能力は関係なく、写真、画像、ビデオらの教材を備え、実地的な技術習得を目的としています。夏までには宿泊できるようにしたいと思います。

「長期継続・二〇年体制」に向けて

以上のように、私たちを取り巻く事業環境は、一昔前と比べて一変しております。

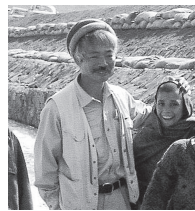
一方、灌漑と農業の必要性は増すばかりです。とても一代で終わらず、幾世代にもわたって継続されるものです。そして、それが可能だと見えています。

現地PMSでは「長期継続・二〇年体制」へ向け、着々と内部改善が進められています。ペシャワール会事務局もこの動きに合わせ、業務態勢をさらに強化、継続性を目指して決意を新たにしています。

——完成した美しい堰と大河の流れは、悠久の自然と、一瞬の人生を告げます。この世界に生を受け、自然の恵みと先人たちの努力の上に現在があります。ここに遺す一つの種子は、その御礼です。それが確実

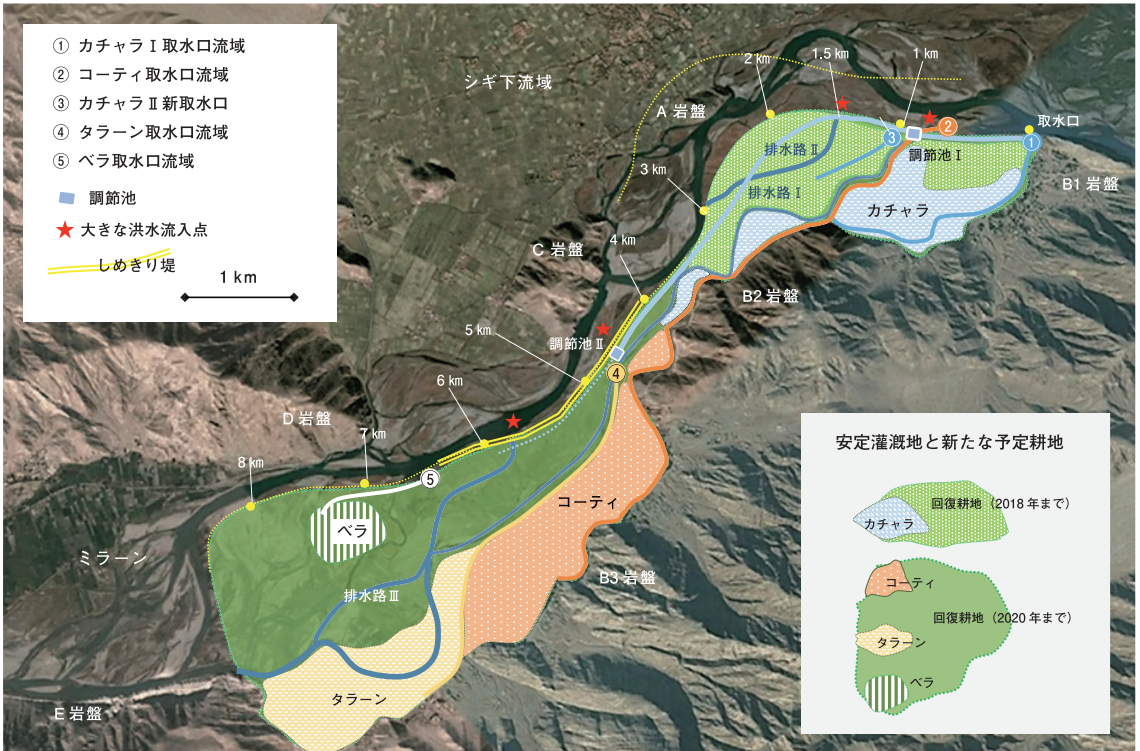
に芽生え、より平和な世界につながるよう祈ります。言葉だけが空転する軽薄な世相と当地の絶望的な状況にあればこそ、実を以て報いたいと思います。

これまでの多大な協力に感謝します。
平成二十九年三月 ジャララバードにて



中村 哲：九州大学医学部卒。専門は神経内科(現地では内科・外科もこなす)。国内の病院勤務を経て、一九八四年パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州(旧北西辺境州)の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療を開始した。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保(井戸掘り・カレージの復旧。作業地千六百カ所以上)事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通した。ダラエヌール診療所の年間診療数四万二七二人(二〇一五年度)。

【カラー特集】「緑の大地計画」の要 ^{かなめ} マルワリードII



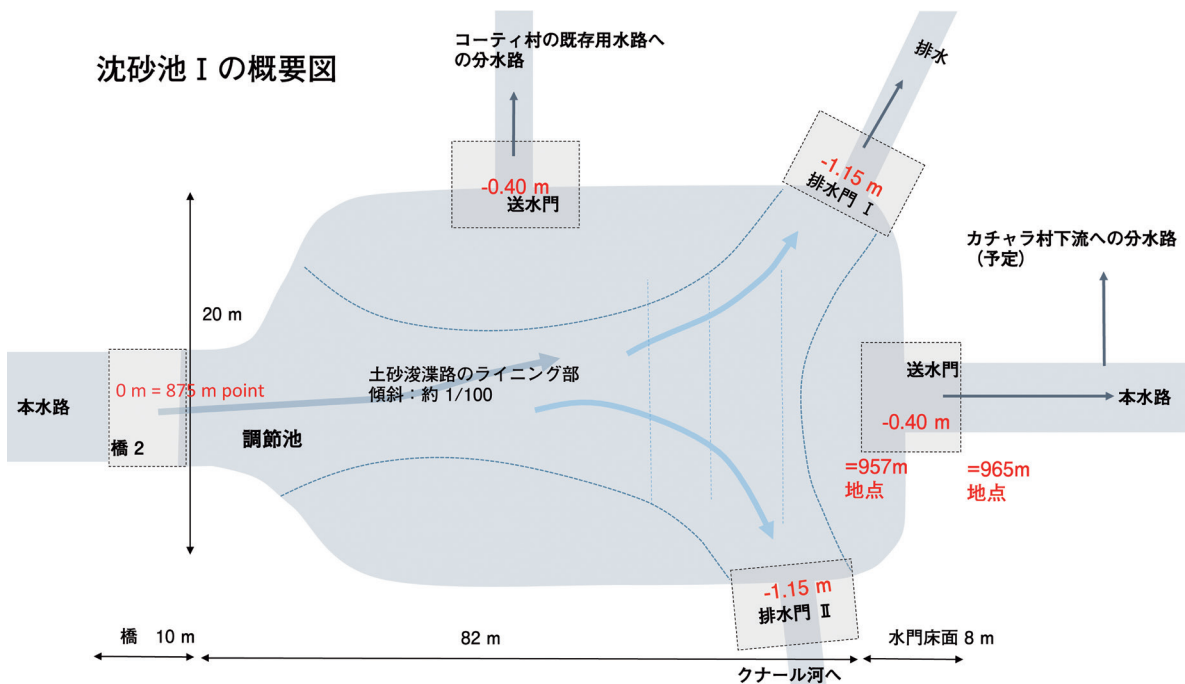
主な既存灌漑用水路と各流域



昨年10月に着工したマルワリードII堰の仮工事を終え、1月28日試験送水が行われた。「神、われらと共にあり」と、あちこちから声があがった(2017年1月28日)



取水門から、水路壁下段の蛇籠工を終えた主幹水路へと送水。上段の蛇籠工も開始され、柳の植樹(柳枝工)も追って施される(2017年1月28日)



沈砂池概要図。マルワリードⅡ用水路約900m地点にあり、本水路への送水門、コーティ村への送水門と2つの排水門を備える。



沈砂池下流部とカチャラ第2分水路。グリーン部分が全部畑になる。流域はかなり広く、現在、新農地の面積を測量中(2017年1月29日)



水を湛えた沈砂池。護岸線に沿って造られた石出し水制群が見える。夏の洪水に備えて護岸工事に尽力中(2017年3月7日)



沈砂池の構造物。本水路への送水門(右上)、コーティ村への送水門(右下)、排水門1(左上)、排水門2(左下)



試験送水の翌日、カチャラ、コーティ、タラーン、ベラの4ヵ村自治会の代表が集まり、ささやかな祝賀会が行われた。パキスタンからの大量難民送還で人口が増え、PMSでは、現在同4ヵ村から作業員と警備員を雇用している。時間をかけてよい仕事は、できるだけ人海戦術で臨む方針にした。中村医師の右隣はジア医師(2017年1月29日)

◎現地スタッフからの便り

井戸事業の技師として
二〇〇〇年から働き始める

PMS職員・フィールドアシスタント
アブドルラフマン



着工からまる1年を経過したガンペリ主幹排水路工事(今夏までに完成する予定)

私は、アブドルラフマンと申します。
二〇〇〇年に、井戸事業の手動汲み上げ

ポンプの設置や発電器のテクニシャンとしてPMSで働き始めました。二〇〇〇年は深刻な干ばつがあり、PMSの活動地のナングラハル州では飲み水の不足などがありました。そこでPMSは第一歩としてソルフロッド郡で飲料用の井戸掘りを実施しました。手掘りで掘った井戸が、ある程度水量を確保した後の、揚水用のパイプと手動式のポンプの取り付けをしました。

その他、ハサルシャヒー郡、アチン郡も厳しい飲料水不足地域であったため、PMSの井戸掘削事業により飲料水のニーズが満たされ、人々は助かりました。

*

井戸事業終了後、私はマルワリード用水路事業に配置され、重機のメンテナンス担当として働きました。また、PMSの以下の既存用水路の取水口や用水路で同様に働きました。

- ・ シェイワ取水口と用水路
- ・ カシコート取水口と用水路
- ・ ミラーン取水口と用水路
- ・ ベスード取水口と用水路 その他

昨年一〇月からは、マルワリードII用水

路建設現場で機械工として働いています。PMSの活動により、多くの人々が恩恵を受けており、私はこのようなPMSで働くことに満足しています。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承くださいませ。すよう、お願いいたします。

▼事務局移転のお知らせ

*二〇一五年五月に移転しました。
新住所…〒八八〇一〇〇三三 福岡市中央区警固二一七 ハイツみかげ八〇三三号 (電話・FAXは変わりません)

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用していただき大変助かっております。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです(払込用紙がついています)。ご希望の方は遠慮なく事務局にお申し越し下さい。パンフレットはA3変形を四折りしたもので、長形の定形封筒に入るカラー版です。

なお、パンフレット、会報等は受け取る意思のある方への配布を原則としております(ポスティング等を行わないこととしております)。

ダラエヌール診療所で貧しい人々のために働いています

PMSダラエヌール診療所勤務・看護師

マルーフ

私は、ナンガラハル州ダラエヌール出身でグルザマーンの息子のマルーフと申します。二〇〇一年にダラエヌール高校を卒業した後、二〇〇五年にナンガラハル看護学校を修了しました。

その年にジャーマン・アグロ・アクションで働き、その後、PMSのダラエヌール診療所で働き始めました。この診療所は患者さんのために二四時間診療をおこなっています。住民はたいへんな恩恵を受けています。

私は、日本政府と日本の人々の、アフガニスタンの貧しい人々へのご支援をたいへん有難く存じております。また、特に中村先生には、アフガニスタンの貧しい人々のためにその人生をかけてくださっていることに對して心より感謝申し上げます。

ワーカー通信

現状と考察の

ひとつひとつが教科書

ベシャワール会事務局・PMS支援室・現地連絡員

東 達也

魚釣りをする人はご存知だと思いますが、海釣りでは潮の満ち引きが釣果に大きく関係します。一般的に潮が大きく動く程に魚が釣れやすい。実際海の中で何が起きているかと言うと、まず小さな生き物から潮流の影響をうけます。潮が動くとき砂が舞い、小さなバクテリア等は浮遊。すると貝は顔を出し、身をひそめる蟹が現れて、海老や小魚があたりを啄ばみ始める。それに合わせ、岩陰や海藻、深みを寝座にする良型の魚が動きだします。潮が動くことで生物が活性化するとき、海の中ではこんな事が起こっているのかもしれませんが。

釣り人は水の中は見えないので、深さや地形、潮や気候条件を予測することで、釣果が望める選択をします。その点は川魚も同様です。季節による水温の変化、水量、

魚の生息地の周辺環境をよく観察します。私の地元で一夜虫と呼ばれるカゲロウが羽化すると、川魚は待っていたように水面を飛び跳ね捕食を行う。水辺の生態は極めて正直にそのままの現状をみせてくれます。

中村先生から送られてくる、週報や写真、動画によると、アフガニスタンでは、現在昨年一〇月から着工したマルワリードII事業で（同時にシギ排水路、ミラントレーニングセンター、ナツメヤシ事業有り）、夏の洪水に備えた護岸工事と、堰、取水門、用水路、沈砂池、主幹送水門、分水門、排水門の施工が進められています。地域と住民への関わり方を含め、机上ではありますが、現地から送られるアフガン灌漑における現状と考察ひとつひとつが教科書だと思っています。

技術者と話をしていますと、数字が一つの言語になります。私は建築の仕事に長く携わってきましたので取水量の見積りとそれに伴う設計の修得をしていきたいと思っています。

もう一つの目標は、山田堰を英語で説明できるようにすることです。私は川から多

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む
 中村哲 【6刷】1800円
 辺境で診る辺境から見る 【5刷】1800円
 医者 井戸を掘る 【12刷】1800円
 医は国境を越えて 【7刷】2000円
 ダラエ・ヌールへの道 【5刷】2000円
 ベシャワールにて 【8刷】1800円

アフガン農業支援奮闘記

高橋修・編著 2500円

聖愚者の物語

甲斐大策 1800円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
 電話092(714)4838

人は愛するに足り、真心は
 信ずるに足る アフガンとの約束

中村哲／澤地久枝(聞き手) 2000円
 岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
 電話03(5210)4000

天、共に在り アフガニスタン
 三十年の闘い

中村哲 1600円
 NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
 電話03(3464)7311

価格はすべて本体価格(税別)です

アフガニスタン DVD

用水路が運ぶ
 恵みと平和

朗読 吉永小百合
 3000円(税+送料込)



中村医師と共に通水を喜ぶ、エンジニア ディダール(右)とエンジニア ファヒーム(左)

くの遊びを教えてもらいました。大人にな
 ってから川の仕事をするとは思っていま

せんでしたが、どこの地域であろうと人
 水、生物の関わりがあることはなら変わ
 りありません。

働き出して一年、パシトゥウ語もすこし
 ずつ上達しています。同様に英語、勿論河
 の事もよく勉強し、現地チームを少しでも
 サポートできれば幸甚です。

四月にはアフガニスタン、ジャララバ
 ドオフィスからジア先生、ディダール技師、
 ファヒーム技師が山田堰を訪問します。よ
 く会話をし、アフガンで案内してくれた
 ように、私どもも万全の体制でお迎えでき
 ればいいなと思っております。
 本当は、大は小を兼ねる話ができればと
 思いましたが、まずはしっかり教科書を読
 み、小さな戦術を積み重ね修得することが
 大切なことと思っております。

サファル・バヘル！(良い旅を)
 ババと盆地と近代

甲斐大策

28

この朝もアミル・ババは孫の嫁とバアミヤーン盆地
 南の自宅から、長男と皆むチャイ・ハナへ、自家製のマー
 ストウを携え、山路を下る。鑿鑿としているが九十数
 歳、何やら咳いて歩き、孫の嫁が怪訝な表情である。
 「龍がどうかしましたか？」
 仄温かい驢馬の背布に添えていた掌を外し、孫の嫁
 は、朝陽に水が光る路を歩くババの足元を気遣って手
 を差し伸べる。

東の高台へ二羽の鶴が翔ぶ。

ババの少年期、高台にホテルが建ち仏考古学局が常
 駐、パリ・ハノイ間走破を目指す無限軌道車が現れた
 りした。一次二次の大戦で欧州は青ざめた若者達を、
 六〇年代後半米国は、反戦脱体制即ち自由、と信じる
 若者達を量産、新旧両大陸の殆どは白人のアジア放浪
 が興る。欧米半世紀分の虚無感と絶望感と夢想が盆地
 にも及ぶ。禁断の樹脂吸引の重い臭気がバザールに流
 れ、そこを金髪碧眼の娘が臨月らしい腹部を抱え、唄
 い笑い、襤褸同然の長衣を引きずり、裸足でさ迷う。
 爪先に塗れた泥が、娘の肌の白さを際立たせていた。
 ディワナ(狂人)女が、と囁ったチャイ出前の少年を
 ババは平手打ちした。

独人傭兵や中央アジア諸民族を含むソ連軍、聖戦士
 各派、訪れては去った。南部パシトゥワンの鄙陋なタ
 リバンを仏蹟破壊へと追い詰めていったのは何なのか、
 ババ達は知っていた。乾いた爆破音と土埃の中に泥塊
 の山と化した大仏への哀しみを、その瞬間の撮影を周
 到に準備し手配していた米国メディアへの憤りが遙か
 に上回っていた。

山路は下り終えた。流れ近くをバザールへ向う。流
 れの源は、旅の勇者が討った龍の、過去の悪行を悔い
 る涙だという。何千年も絶えない涙だと人々は伝えて
 きた。その不変の流れの遙か南、鋭い稜線とその下方
 のたおやかな丘陵群を新雪が覆っている。

(1)「ヨーグルト」バアミヤーンのそれは清浄な山気ゆえ
 に有名

(2) キャタピラ装備の「シトロエン探検隊」

●事務局長便り

*中村医師の報告にありますように、昨年からは始まったパキスタンからの強制送還難民でジャララバードは溢れています。膨大な数ですが、その一部は現地PMS（平和医療団・日本 総院長・中村哲）の事業が受入れています。PMSでは、手作業を増やし人海戦術をとって雇用を拡大していますが、灌漑水路が出来れば、農地整備や農作業にも人手が要ります。またダラエヌール診療所も難民の診療を開始しました。PMS事業が難民の受け皿となるためにも、全力で水路事業を支援して行きます。

*「アフガン・緑の大地計画」が発足して二五年になります。それを推進する事業体としてのPMSも現地に土着化しつつあります。PMSが自立し継続的に水路を建設・維持して行くためにも、今が正念場かと考えます。会員・支援者の皆様の更なるご支援をお願い致します。最後に中村医師の言葉を引用致します。

「この世界に生を受け、自然の恵みと先人たちの努力の上に現在があります。ここに遺す一つの種子は、その御礼です。それが確実に芽生え、より平和な世界につながるよう祈ります。（中村哲）」

●PMS支援室より

帰還難民が、東部アフガンに送還されてい

る。新水路の開通と軌を一にして。食、職、住を求めて、水路近くの道路に市が立ち、ガソリンベリにテントを張る家族も多い。PMSの「緑の大地」が、その受け皿になっているのは間違いない。現地特有の喧嘩と賑やかさは、察して余りある。……事業と難民救済は直結するのだろうか？ 言わずもがな、である。その活動が、支援と、支援の支援であるのだから。日本での、一人ひとりの、一つの作業が、確実に彼らの役に立っている。観念、想念でなく、祈りが現実の形となって、彼らに届けられることが、無上の喜びである。

◎村から

退職を機会に残りの時間を何のために使うかを模索中、同級生から紹介されてペシャワール会のお手伝いを始めました。まもなく一年となりますが、まだまだ初心者マークが取れない状況です。今はDVD上映会開催等に関わらせて頂いています。個性派ぞろいの先輩方に暖かいご指導(?)を受けながらワイワイガヤガヤと笑いと独り言の絶えない輪の中で活動をさせて頂いています。この活動に関わって、毎回の活動があたかも蛇籠を作っているかのように思え、先生の意志(石)を一つずつ積み上げているような気がしている自分がいいます。(HT)

会 則

①本会の名称をペシャワール会とする。
②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。

⑨本会の事務局をFARAHOUSE
(〒八一〇〇〇二三 福岡市中央区警固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号
TEL〇九二―七三―二三七二)内におく。

総会、現地報告会は、原則として毎年六月第一土曜日に開催いたします。